

三浦市立上宮田小学校

研究テーマ：自他のよさに気づき、考え、行動できる子
～道徳の授業を軸とした自己肯定感を高める指導の工夫を通して～

1 実践の目的

本校の教育目標は、「自立・貢献」である。この教育目標には、子どもたちには、たくましく生きぬく「自立」の力と、他者や社会に「貢献」する心と力を持ってほしいという願いをこめている。この教育目標の具現化に向けて、目指す児童像として、以下の2つを掲げている。

- ・自分を好きになり、自分を高める子
 - ・ほかの人を認め、ほかの人を大切にする子
- しかし、実態としては、自分とは異なる他者の言動を受容できなかったり、周りに影響されて自分の考えで行動できなかったりするという課題があった。

これらの課題を解決するために、児童の自己肯定感を高めようと、上記のテーマを設定した。

2 実践の内容

(1) 校内研究について

児童の自己肯定感を高めるために、道徳の授業と、他教科や総合的な学習の時間、特活、学級経営等との関連を図りながら、様々な活動に取り組んできた。今年度は、「かがやきのつどい」という全校発表の行事を実施したこともあり、学校行事や特別活動の中でも、児童が自らのよさに気づき、他者のことを認められるよう指導してきた。

授業研究会では、道徳の授業を中心として、代表者以外も授業を公開した。研究授業をする際には、各学年部で事前に検討・協議

を行い、成果と課題を出し合った。その後全教員で、指導案検討を行う全体会を設けた。また、低中高の3ブロックから1人ずつ研究授業をし、それぞれの発達段階においてどのような指導や活動が有効なのかを全体会で協議した。

学級経営では、年度の始めに学級経営案を作成し、1年間の見通しを持って学級経営ができるようにした。また、低中高の3ブロックから1人ずつ学級経営について発表をし、それぞれの学級で行っていることの共有や、発達段階において有効な活動などを全体で協議した。

(2) 研修について

全体公開授業の指導案検討と協議会・教員研修に、神奈川県教育委員会の指導主事を講師として招聘した。年間を通して、道徳の授業づくりや協議会の在り方等について、継続的に助言を受けることができた。

また、夏休みには、教員同士で本校の課題解決のための研修会を行った。

第9回研究全体会には、東京学芸大学の永田教授にもご講演をしていただいた。

3 実践の成果と課題

日々の授業や「かがやきのつどい」をはじめとする学校行事等で、テーマの達成に向けて意識して取り組んだ結果、児童が主体的・協働的に行動する姿が多く見られた。学級活動での成功体験は、児童の自己肯定感を高めることにつながったと感じる。

研究の軸としていた道徳の授業においては、これらの学校生活と関連させながら、道徳的価値について理解を深めたり、自己を見つめたりする授業づくりを意識することができた。「この行事の前後で」「学級経営と関連させて」等、道徳の授業をどう学校生活と関連づけるかという教員の意識が高まってきたように感じる。

授業について全教員で話し合うための時間の確保は容易ではなかったが、年間で3本の授業について、事前に学年部での指導案検討の後、全体での指導案検討会と授業後の協議会を研究全体会として開催した。その結果、道徳の授業づくりについて、協議をしながら学び、よりよい授業へと繋げることができた。

また、この場に継続して助言してくださった指導主事存在は大きかった。本校の児童の実態と教員の思いを汲み、寄り添いながら指導してくださった。そのおかげで、教員も楽しみながら道徳の授業について考えることができた。



1年生研究授業の板書

さらに、学級経営案を年度の始めに作成することで、教員が一年間の見通しを持ち、子どもたちに対して共通の意識を持たせて活動をさせるきっかけとなった。また、子どもたちも集団としての結びつきや、仲間意識を持つことができた。

クラスでの取り組みも、研究全体会で年に3回共有し、協議することで、発達段階

や児童の実態、学校行事等に応じた学級経営について教員の意識が高まってきたように感じる。

4 今後の展開

学校生活と関連を図ることで、児童は道徳の授業に主体的に取り組むようになっていった。また、日々の学級活動が充実していると、より対話的な授業になると感じた。なによりも、教員が道徳的価値について考え、授業のねらいを明確に持つことが、深い学びにつながると実感した。

「特別の教科 道徳」において、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、道徳の授業と他教科や総合的な学習の時間、学級経営などを関連付けることも有効であると感じた。

今年度の研究をふり返る中で、子どもたちの自己肯定感についても、高まってきたと感じる。これは、これまでの研究の成果と言える。そこで、改めて現在の児童の実態について話し合ったところ、目指したい子どもの姿は、主体性があることではないかと考えた。この話し合いから、来年度は研究主題である『自他のよさに気づき、考え、行動できる子』の『考え』にねらいを定めていきたいと思う。学び合いを通して思考力の育成ができるよう、コーチングやファシリテーションといった手法も活用することができたらと考えている。

また、全員が同じ方向性で研究を進めていけるよう、来年度も、代表者による授業を実施し、指導案検討や協議会を全教員で行うことで、授業力の向上に努める機会としたい。

今年度、研究に対して前向きに取り組み、1年間進めることができた。この雰囲気、来年度以降も全員で楽しく研究を進めたい。